

第49回「Face to Faceの会」たより

演題 I

『脊椎外科 手術治療の進歩とこれから』



整形外科

診療科部長 寺井 秀富

大阪公立大学整形外科の脊椎外科グループは大学病院の使命として、乳幼児から高齢者まで幅広い脊椎疾患患者の診察と治療を行っております。手術治療は内視鏡を用いた低侵襲脊椎外科手術から最新の Navigation systemを用いた変形矯正手術まで最先端の手術治療を提供できることを特徴としております。

(図1) おかげをもちまして、脊椎外科手術実施件数はこの20年間で4倍近くに達しており、そのうち30%を内視鏡手術、20%を矯正固定手術がしめています。(図2)

脊椎疾患は加齢とともに、特に70代で増加することが知られています。高齢者の約10%の人に間欠跛行が認められるというデータもあり、脊椎関連の症状でお困りの患者さんは確実に増加しています。脊椎手術は術後の臥床期間も長く、合併症も多い大変な手術だというイメージがあって、手術を忌避される患者さんも多いと思います。しかし、現在の脊椎手術は低侵襲化が進み、基本的に翌日離床、術後7日~10日での退院が基本となっております。椎間板ヘルニアにおいては切らずに注射で治す時代になっています。ですので、もし脊椎疾患でお困りの患者さんがおられましたら、脊椎外科手術の現状を伝えて安心していただき、当方にご紹介いただければ幸いです。

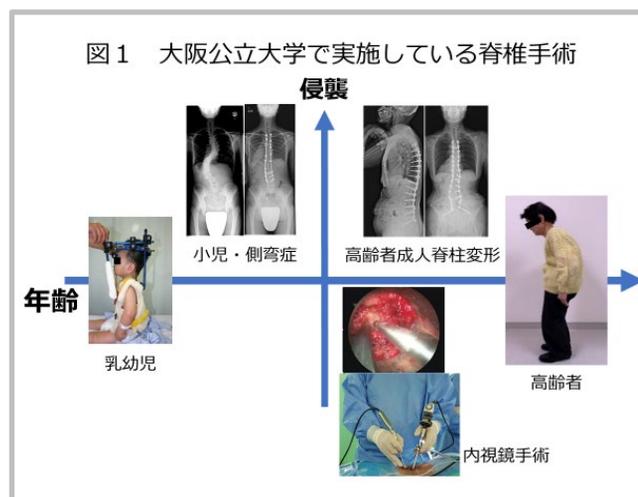


図1

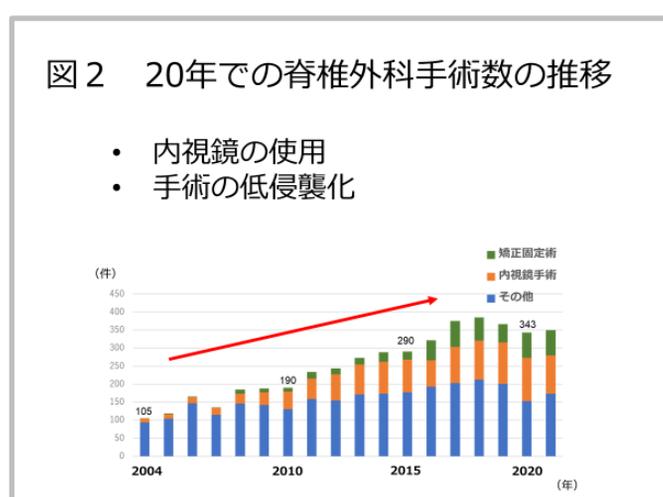


図2

演題 II

『循環器内科の取り組み： 急性期から慢性期までシームレスな診療を目指して』



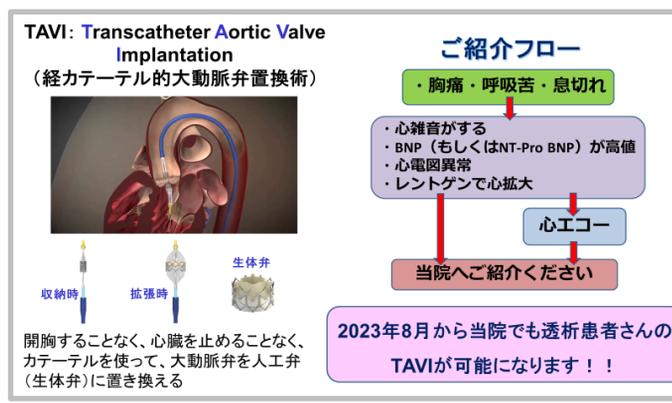
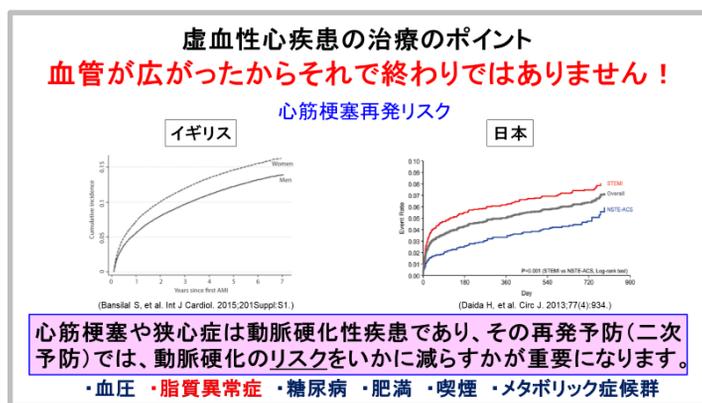
循環器内科 診療科部長 福田 大受

平素より大阪公立大学医学部附属病院循環器内科がお世話になっております。今回は虚血性心疾患の2次予防と経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）に関するトピックを概説させていただきました。

虚血性心疾患、特に心筋梗塞の死亡率は低下してきていますが、発症率は低下しておらず、また再発も多いのが現状です。これらの改善のためには、発症時の適切な治療に加えて、エビデンスに基づいたリスク管理が重要です。当科では、急性期の治療はもとより、パンフレット等を用いた分かりやすい説明を行い、慢性期の治療・予防にも力を入れています。

高齢や合併症のために手術が受けられなかった大動脈弁狭窄症（AS）患者さんに対してTAVIは非常に有用です。当科ではこれまで安全に症例を積み重ねてきました。今年の夏頃からは以前から問題となっていた透析患者さんのASに対するTAVIの認可が下りる予定です。患者さんにとって治療の選択肢が広がることは素晴らしいことと考えます。実際の治療だけでなく、その後のフォローアップも責任をもって行います。

当科では、発症の予防・急性期の適切な治療は必要ですが、発症後も安心して暮らせることも同等に重要と考えています。気になる患者さんがいらっしゃれば、いつでもご連絡・ご紹介いただけましたらと思います。24時間365日体制でご相談に対応できるサポートコール（06-6645-2573）も準備しております。今後も地域の先生方と連携を取りながら、地域医療の充実に力を入れていきたいと思っております。今後ともよろしくお祈りいたします。



次回開催のお知らせ Face to Faceの会

日 時: 令和5年11月25日(土) 16:00~17:30

場 所: あべのハルカス25階 貸会議室

発 行: 大阪公立大学医学部附属病院「Face to Faceの会」
文 責: 患者総合支援センター長 角 俊幸（世話人代表）
連絡先: 06-6645-2857（患者支援課）